



声楽コンクール/モーツァルトのオペラ二題

田辺とおる

これは熊本で書き始め、盛岡・仙台と持ち歩いて今日、ここ札幌から入稿しないと編集さんに怒られる、というタイミングになりました。六月からお盆の前まで「東京国際声楽コンクール」全国二十四か所の地区大会が開催されており、各地の審査員チームに加わる傍ら事務局長を務める僕は、北から南まで放浪の日々を過ごしています。一段落しないと九月オペラ公演のモードになかなか切り替わらないので、今回はコンクールの御紹介から始めましょう。

五年目を迎えるこのコンクールは、高校・大学・新進声楽家(二十一〜二十六歳)・一般という、声楽を専門に勉強している方の年齢別部門と、歌曲・オペレッタ(声楽発声で歌うミュージカル等も含む)・アンサンブル(二〜八人の重唱)という分野別部門、それに声楽愛好者部門で構成されている、声楽の総合的なコンクールです。地区大会を通過した人は東京と兵庫の東西准本選を経て、九月十月に東京で開催される本選で覇を競います。

昨年の延べ参加者は約三百人、本年は既にこれを上回りました。高校の入選・入賞者は優秀な音大に進学し、大学・新進・一般は弊会のオペラ公演だけでなく、次々とメジャーデビューを飾っています。一方で愛好者は五十五歳を分岐点にA/B部門に分けていますが、Aには「たまたま本業を持っているけど実力はプロ歌手並み」という凄腕がひしめく一方で、Bには八十四歳を筆頭に「後期高齢者保険証」をお持ちの方が続々と出場しています。真摯に取り組んでおられるだけでなく、自身の世界に没頭する枯淡の境地から語る味わい深い歌を披露してくれま

す。競争ですから最終的には合否や順位が出るものの、勉強の目標、本番の反省、ライバルからの刺激、審査員講評による学習など、様々な「やり甲斐」を全国的に提供したいと願って創設しました。それが着実に機能し始めていることに大きな手ごたえを感じます。形式としては競争

を提供しているものの理念は競争ではなく、声楽的・音楽的な実感を感じとる契機になればと思います。

同時に、コンクールは指導者を映す鏡でもあります。講評に書く欠点の指摘は畢竟、本人を通過して指導体制へのメッセージです。声楽はスポーツに極めて近い肉体の鍛錬ですが、得点ゲームのスポーツ程明快には答えがありません。まして外国で確立された様式美を、外国語を歌いながら追及しています。自己流の指導や誤った知識が潜在しやすいうことは否定できません。これらの問題意識の活性化にもコンクールは寄与したいと思ひますし、声楽教員の一人である僕も、講評を書きつつ他山の石と肝に銘じています。

とりわけ憂慮されるのは、高校合唱の隆盛に比して声楽を志す学生は激減している現状です。日本人は団体行動と競争が好きだなぁと痛感する次第。三年夏休みの合唱コンクールまでは毎日何時間も歌うのに引退したら最後、歌からも音楽からも遠ざかり大学でも再開しないという高校生は多いのです。文化の土壌という面では国家の大損失です。

合唱を非常に熱心にやった生徒にアンケートした報告があるそうです。審査員のお一人から教わりました。小学校で熱中した子は中学以降、中学で熱中したら高校で、高校で熱中したら大学で、それぞれ合唱は継続しない確率が大変に高い由。まさに燃え尽き症候群です。

始まったばかりの人生、これでは勿体ない。特定の団体に合唱に熱中するのは素晴らしいが、その活動の中に「独唱」という道筋も提示されていればもつと将来に繋がるの、と悔やまれます。コンクール高校生部門は、音大進学者の腕試しだけではなく、全国の合唱高校生に、独唱の楽しみも紹介する場でありたいと願っています。

ではオペラの話に移りましょう。「後宮からの(ふたつの)逃走」はもちろん造語。そのまま検索しても弊会のサイトしか出てきません(笑)。

モーツァルトは十一歳から三十五歳で亡くなるまでに、未完作を含め約二十曲のオペラを書きました。そのうちドイツ語作品は僅か六曲。大半は当時のオペラの主流だったイタリア語です。しかし彼は終生「母国語で喜劇を書く」ことにこだわりました。

今回は二十五歳前後という、若々しいモーツァルトのドイツオペラを二作取り上げます。どちらも、トルコのハーレムに幽閉されたヨーロッパ人の恋人達が、太守(サルタン)の手を逃れて逃走を謀る物語。

《ツァイデ》は未完作品ですが、台本は全曲できていて、曲もハッピーエンドのフィナーレだけが作曲されなかったというものです。ドイツ語圏で最近よくやっているように、開幕の合唱曲の音楽を転用して歌詞をあてはめ、終曲としています。次作の《後宮》のプロトタイプになった、大変に音楽の美しい作品です。

《後宮からの逃走》は、映画アマデウスにも登場します。皇帝ヨーゼフ二世も臨席したウィーンの初演が大成功。モーツァルトの名声を一気に高めた名作で、華麗なコロラトゥーラからバスの超低音まで、声の魅力が満載です。

どちらも合唱と一部のナンバーを割愛して、一晚の公演に収めます。ハーレムの主人、サルタン(太守)と、従者オスミンは両作品で同じ歌手。逃げる方は前半・後半で別の歌手。つまり「後宮からの(二つの)逃走」です。なお、《ツァイデ》のゴーマツは本来テノール役ですが、今回は変化をつけるために、メゾソプラノのズボン役にいたしました。

美しいモーツァルトの音楽乍ら趣向はひとひねり。是非お出かけください。また、コンクール本選も公開しています。こちらは無料。気鋭の才能を発見してください。

第5回東京国際声楽コンクール本選 地区大会そして准本選の通過者が集結!

2013年9月15日(日)・10月12日(土)・10月13日(日)10時~
東京・イタリア文化会館アネヅリホール

公開審査・観覧無料・入場券不要
どなたでも観覧いただけます

9/15(日)新進声楽家・一般部門 10/12(土)オペレッタ・歌曲・アンサンブル・愛好者B部門 10/13(日)高校・大学・愛好者A部門
主催・お問合せ:一般社団法人 東京国際芸術協会 03-3809-9712 <http://www.tiaa-jp.com>

